

研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援(エコシステム促進費)
2022年度採択
終了報告書

「価値検証フィールドワーク・ユニット」
活動期間：2022年12月15日～2026年3月31日

2026年5月29日

【ユニット代表者】
所属:宮城大学
役職:教授
氏名:中田 千彦

I. ユニット名、リーダー機関、メンバー機関 等

ユニット名	価値検証フィールドワーク・ユニット
リーダー機関	宮城大学
メンバー機関	東北大学、新潟大学、京都大学、神戸大学
ユニット代表者	宮城大学 事業構想学群 教授 中田 千彦
評価対象の活動期間:	2022年12月15日～2026年3月31日

II. 活動概要

本ユニットは「プラットフォームという枠組みを超えて既存のプログラムを繋ぎ、各大学や機関が地域社会の問題解決を通して、未来社会を創る人材を1500人規模で育成する」ことを目標に、ソーシャル・アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営を実施している。オンライン講義・ワークショップを提供する1)価値検証アクティブラーニング・プログラム、1)を補完する動画教材としての2)価値検証オンデマンド・プログラム、構想した事業プランを「現場」で検証する3)価値検証フィールドワーク・プログラム、の3コンテンツを設計、開発し、実施した。

III. 活動内容と成果

1. 設定した目指す姿への進捗

(1)ユニットの目指す姿(支援終了時点)

目標:「プラットフォームという枠組みを超えて既存のプログラムを繋ぎ、各大学や機関が地域社会の問題(社会システムの再構築と地方創生)解決を通して、未来社会を創る人材を1500人規模で育成する。」

進捗:最終年度の受講者数合計は1717名(達成率114.5%)であり、当初目標の「1500人規模」を達成。「アントレ教育の裾野拡大」の文脈で設定した受講者の所属機関別目標のうち、価値検証アクティブラーニングプログラムの達成状況は101.8%(509/500名)。このうち、カテゴリC機関(PF外機関)の受講者数は、394/350名(達成率112.6%)、価値検証テストマーケティング・プログラムについては68%(32/50名)であり、「アントレ教育の裾野拡大」に一定の貢献を果たしたと言える。最終年度は、価値検証アクティブラーニング・プログラムの月例開催と多様なゲスト講師の招聘、他機関への積極的な出前講義の展開、学長によるトップセールス等、過年度の運営上の諸課題を踏まえた戦略の見直しが功を奏したと言える。TeSH共同主幹校である北陸先端科学技術大学院大学との連携体制を構築し、防災減災アイデアソンである「レジリエンス・プログラム」の共同企画・実施からV2F価値検証フィールドワーク実施まで一貫通貫での受講パスを設計・構築した結果、能登地域内のステークホルダーを対象として、被災地学生ボランティアに係る事業プランを有するチームによる検証フィールドワークを実施することができた。

(2)本取組で育成を目指す人材像

目標:「地域の社会解決に自らの意思で対峙し、自らの力で、そして仲間と協力しながら、自らが提案した事業モデルを実行するスキルとマインドセットを兼ね備えた人材。」

進捗:価値検証アクティブラーニングプログラム受講を経て、価値検証フィールドワークにエントリーし、採択者として、15チーム75名を輩出。いずれも、本事業の目標に掲げた人材像に合致するメンバーで構成され、各チームが抽出・設定した地域の様々な社会問題の解決を目指して、価値検証フィールドワークを実施した。

(3)どのような学生を受講対象とするのか

目標:「知識の獲得に対する欲求を持ち、その知識を社会課題に活かすために自らを理解し、主体的に行動

したいと望む大学生・大学院生・高専生・社会人。

進捗：属性別・年度別受講者数を表1に示す通り、概ね。当初目標としていた受講対象として事業を実施することができたと言える。

年度	大学生	大学院生 (修士・博士課程)	研究者	社会人	その他・不明	年度別合計
2022	0	0	0	0	52	52
2023	41	9	12	6	461	529
2024	120	21	25	6	864	1036
2025	253	14	48	26	1376	1717
属性別合計	414	44	85	38	2753	3334

表1 属性・年度別受講者数

(4)受講者や教職員等へ提供する価値

目標：【受講生に対して】社会起業家としてのマインドセット及びコンピテンシー形成についての教育、及び自らの意思で社会を変革する経験を与える。【教職員等に対して】新しい価値創造のための教育のフレームワークを共に考え、実践することで「共創」を経験する。大学間、異分野の教員間の「共創」で未来の教育の形を創る。また、本ユニット活動で得られるノウハウを、パッケージ化したマニュアルとして整備し、アントレプレナーシップ教育に関わる教職員向けに展開することでさらなる「裾野の拡大」を実現する。また、既存の地域コミュニティとさらに連携していくことで、受講生数の増加と教育プログラム開発におけるパートナー大学の数を拡大していく。」

進捗：【受講生に対して】価値検証アクティブラーニング・プログラム及び価値検証オンデマンド・プログラム(www.youtube.com/@Value-Verification-Fieldwork)において、社会起業家としてのマインドセット及びコンピテンシー形成に資するコンテンツ群を作成、提供。また、価値検証フィールドワーク・プログラムにおいて、初歩的な実践から仮説検証・プロトタイプまでの体験学習・実践の機会を提供。各チームへのメンタリング・個別伴走支援を行った結果、以下のような成果が派生した：

<創業または創業準備中> 大学院受講生が株式会社創業(出身大学発のベンチャー企業認定)；V2F参加を機に創業を決意、出身地自治体と協議・準備中。

<外部評価を経て、受講生から社会実装実践者へ> 学生時BizコンM-BIPに2名入賞。うち1名は事業プラン実証に向けて調整中；技術シーズの社会実装検証フェーズへの参入(2025年度仙台Bosai-techオープンブリッジ採択、2025年度NEDO Entrepreneurs Program「開拓コース／NEDO-Front-Runner」採択)。

【教職員等に対して】価値検証フィールドワークに採択された学生チームに、当該機関の指導教員にもメンターとして関与していただくことで、新しい価値創造のための教育のフレームワークで「共創」する機会を提供。本ユニット活動で得られるノウハウのパッケージ化・展開への準備と、既存の共創コミュニティとの連携強化を目的として、神戸大学V.Schoolサロンにて、「ソーシャル・イノベーション」をテーマとする公開セミナーを2回開催。

2. アントレプレナーシップ人材育成プログラムの内容

・実施内容：1)価値検証アクティブラーニング・プログラム：2023・2024 年度は、オンラインによる集中講義形式で実施。2025 年度はオンラインによる月例開催として設計、実施。全国で活躍するソーシャル・アントレプレナー9 名をゲスト講師として招聘し、ゲスト講演と V2F レギュラー講師による解説の 2 部構成にて全 10 回開催。出前講義・ワークショップを、延 7 団体 345 名を対象に実施。2)オンデマンド動画を合計 66 本制作し、YouTube 及び公式ウェブサイトにて公開。3)毎年度後半に1回ないしは2回、フィールドワーク実施チームを募集・選抜し、検証フィールドワークの場を設計。派遣先とのマッチング・調整を経て、オンラインによる事前メンタリング、検証フィールドワーク及び事後学習を実施。学生チームの要望やアイデアの解像度に応じて、3タイプの仮説検証を実施(「問題」の検証・「ニーズ」の検証・「プロトタイプ」の検証)。

・今後の課題と対応方針：以下 4 点を、受講生及び運営上の課題として把握。①研究プロセスに習熟していない学部1、2年生は事前リサーチが圧倒的に不足しており、検証フィールドワークが「事例探し」になりが

ち;②独自のプロジェクトや課外活動履歴を持つ学生の方が、「検証」活動に移行させやすい;③アクティブな学生はプログラムを掛け持ち受講する傾向にあり、リソース分散が原因で成果物の質が相対的に低くなる;④ゼミ活動の一環として参加した場合は、ゼミ時間外での自主的活動が難しい状況も生じる。これら 4 課題を前提に、V2F 受講生の属性について定性的分析を行った結果、以下4類型に分類することができた:「Program Seeker」:具体的アイデアはあるが「現場(フィールド)」を持たない;「Structured Achiever」:既存の枠組み(ゼミ等)でプロジェクトとして遂行する;「Program Liver」:高い意欲はあるが「フィールド」を持たない;「Potential Founder」:ビジネスアイデアと高い意欲、一定のフィールドを有する。V2F 受講生の多数を占めた学部1・2年生に多い「Program Seeker」や、学部2・3年生に多い「Structured Achiever」には、プロジェクトを構築するための「日常的なハンズオン支援とその環境整備」が必要であり、各大学機関内において、当該活動・機能や関連コミュニティの可視化が望まれる。価値検証の実践者として位置付けられる「Potential Founder /Program Liver」には、より高いレベルでのメンタリングや個別伴走支援、適切な実践・フィールドの機会の提供が必要である。本持業において、プログラム受講終了後も個別伴奏支援を行った結果、創業者・創業準備者が創出されたり、社会実装検証フェーズへ進んだりする事例が出てきた。今後も、アイデアソン実施以降の状況等を鑑みながら、個別伴走支援の仕組みを検討する。

3. アントレプレナーシップ人材育成プログラムの広報・選考

・**実施内容**:学長リーダーシップのもと、各種ネットワーク等への宣伝、オンラインでのプログラム説明会およびブレ講座体験会プログラムを実施。プログラム宣伝動画を制作し、学生広報アシスタントを通じて、公式ウェブサイトやSNS上での情報発信・宣伝を強化。これまで連携していたプログラム群や、構築してきた教職員ネットワークへの情報発信、各種イベントへのブース出展を通じて、本事業について周知。【選考方法】他機関と協力しながら、①価値検証アクティブラーニング・プログラムは、フォームを通じての登録制で募集、②価値検証オンデマンド・プログラムは完全公開、③価値検証テストマーケティング・フィールドワーク・プログラムは、事業アイデアとフィールドとのマッチング等を考慮しながら、実施チームを選抜。

・**今後の課題と対応方針**:提供コンテンツと受講層とのより良いマッチングのために、想定受講層へ丁寧な情報発信だけでなく、プログラム実施自体を宣伝の機会と捉えた学生コミュニティの構築や、教員・スタッフとのネットワーキングの機会設置・密なコミュニケーションが必要である。学会などの既存ネットワークを活用したコミュニケーション強化を検討する。

4. 学生・教職員等のネットワーク構築

・**実施内容**:イノベーション教育学会内に新たに「プログラム開発・普及部会(PG部会)」を設置し、アントレ教育における課題等を討議・共有するセミナーを実施することで、START事業内外機関教員とのネットワークを構築できるような環境を整備。同学会年次大会セッションにて、アントレ教育担当教員や受講生によるパネル討議を企画・実施。イベント出展を機にネットワークを構築した学生アントレプレナーを、アクティブラーニング・プログラムのゲスト講師として招聘。【学生ネットワーク構築】イノベーション教育学会第年次大会にて、価値検証フィールドワークを実施3チームによるポスター発表を支援。V2F受講生の学生ビジコン「M-BIP」へのエントリーを支援。V2Fを含む社会問題解決型プログラム参加者を中心とする連絡網(LINEやSlack)の整備を通じて学生ネットワークを強化と並行して、プログラム現役受講生や修了生による対面イベントを行い、プログラムや期を跨いだネットワーキングを実施。イノベーション教育学会年次大会のポスターセッション及びPG部会セッションをアルムナイイベントとして位置付け、発表者・登壇者間によるネットワーキングの機会を設置。当該学生による自主活動としてアントレ教育効果測定に関する研究チームが生まれ、某民間財団助成事業への応募に至った。

・**今後の課題と対応方針**:アントレ教育現場に課題感を有する教員・組織や学生コミュニティの把握に課題がある。前者については、既存コミュニティでの地道な情報発信とネットワーキング強化の起点として、イノベーション教育学会 PG 部会にて、新たな教育プログラムの開発を検討中。後者に対しては、「日常的な接点を持ちことができる環境」が必要であり、前述した「受講生4類型」を念頭に、支援メニューの可視化と仕組み作りを検討中。

5. 支援終了後の自律的な運営の仕組み

・**実施内容**:メンバー機関と協力して、レジリエンス・プログラムの活動内容・ノウハウをパッケージ化し、「ソーシャルイノベーションの教科書」を上梓。企業協賛を集めるための情報発信の一環として、関連イベントで

のブース出展、および第4回SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞へエントリーした。イベント出展を通じてネットワークを構築した企業群とのヒアリングを実施。

・今後の課題と対応方針：人材育成に関心を持つ団体・人事担当者とのネットワークは構築しつつあるが、機関ごとの寄付金・協賛金を受け入れる仕組み・規定や、正規・課外プログラムと寄付金・協賛金との関係性に高い障壁があることが判明した。関係者へのヒアリングを通じて、ベストプラクティスの収集を検討中である。